



Title	徳永恂教授研究業績
Author(s)	
Citation	年報人間科学. 1992, 13, p. 207-210
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/11882">https://doi.org/10.18910/11882</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 徳永恂教授研究業績

### ◇履歴

昭和二六年三月	東京大学文学部卒業
昭和二七年五月一日	北海道大学文学部助手
昭和三四年四月一日	北海道大学文学部講師
昭和三九年一二月一日	北海道大学文学部助教授
昭和四三年四月一日	大阪大学文学部助教授
昭和四七年五月一日	大阪大学人間科学部助教授
昭和四八年四月一日	大阪大学人間科学部教授
平成四年三月三一日	退官

### ◇主な研究テーマ

フランクフルト学派研究、比較文明学、社会哲学、社会思想史、人間科学基礎論

### ◇功績

フランクフルト学派の研究で『ユートピアの論理』『現代批判の哲学』の二著をあらわし、また『啓蒙の弁証法』を翻訳した。

歴史哲学、知識社会学、人間・社会科学の方法論に関しては、著書『社会哲学の復権』をはじめとして多数の論文がある。

各種学会の役員を歴任したが、とりわけ社会思想史学会は発起人、創設以来の幹事をつとめ、現在代表幹事である。

大学では昭和五五年～五七年評議員、六一年～六三年人間科学部長を勤めた。

◇論文

は何か』社会思想社

「形式合理性の実質的意味」昭和二八年『社会学評論』九号

「ルカーチと歴史主義の問題」昭和三一年『思想』四〇〇号、岩波書店

「マンハイムと歴史主義の問題」昭和三三年『社会学評論』三三三号

「哲学への要求と全体性への要求」昭和三七年『科学基礎論研究』

二〇号

「イデオロギー・ウトピー・エスカトロギー」昭和三七年『社会学評論』四六号

「四つのウェーバー像」昭和四〇年『社会学評論』六〇号

「マックス・ウェーバーと合理化の問題」昭和四〇年、城塚編『社会

会思想史入門』有斐閣

「Wertfreiheitと合理化批判」昭和四一年『社会学評論』六一号

「現代批判とベーゲル」昭和四一年『思想』五〇一号、岩波書店

「疎外の概念と疎外論の地平」昭和四一年『中央評論』九七号、中

央大出版部

「社会認識における全体性問題」昭和四三年『岩波講座 哲学』一

二巻、岩波書店

「ユートピアと否定の弁証法」昭和四四年『中央公論』一月号、中

央公論社

「アドルノにおける否定性とユートピア」昭和四五年『理想』一一

月号、理想社

「ユートピアと現代」昭和四六年『われわれにとってユートピアと

「ホルクハイマーと批判的理論（上）」昭和四六年『思想』四六年

一二月号、岩波書店

「ホルクハイマーと批判的理論（中）」昭和四七年『思想』四七年

一月号、岩波書店

「ホルクハイマーと批判的理論（下の一）」昭和四七年『思想』四

七年七月号、岩波書店

「ホルクハイマーと批判的理論（下の二）」昭和四七年『思想』四

七年八月号、岩波書店

「啓蒙の行方とその運命」昭和四七年、伊藤編『知性の歴史』新曜

社

「西欧マルクス主義の展開」昭和四七年『日本読書新聞』一月連

載、日本読書新聞

「井伏鱒二論」昭和四七年『人間として』一一号、筑摩書房

「アドルノのオデュッセイア論」昭和四八年『現代思想』二月号、

青土社

「フランクフルト学派と現代思想」昭和四八年『社会科学の方法』

六月号、御茶の水書房

「清水幾太郎『倫理学ノート』」昭和四八年『歴史と人物』四月号、

中央公論社

「社会科学と価値判断」昭和五〇年『福武著作集』第一巻、東大出

版会  
「ウェーバーとリルケ」昭和五一年『本』第一巻三号、講談社

「フランクフルト学派とニーチェ」昭和五一年『現代思想』四卷一

二号、青土社

「フロイトと沈黙」昭和五二年『現代思想』五卷六号、青土社  
「フランクフルト学派・ルカーチ」昭和五二年『西洋哲学史の基礎

知識』有斐閣

「未知の一人称をもとめて——若きフロムのユートピア像——」昭

和五三年『講座 現代の哲学』二、弘文堂

「批判的理論」昭和五五年『労働法』別冊第六号 現代社会学、総合  
労働研究所

「崩壊と訣別——教養小説の崩壊——」昭和五五年『匙』第二号、

ふたば書房

‘Ideologie in Japan’昭和五六年、*Japanhandbuch*, Steiner Verlag

「精神分析と解釈学（一）——人間科学と哲學の対話——」昭和五

八年『阪大人間科学部創立一〇周年記念論集』阪大人間科学部

「人間科学から見た宗教」昭和六〇年『真理と創造』二五、校成出

版社

「家族と国家——ヘーゲルとフランクフルト学派——」昭和六一年

『岩波講座 哲学』一卷

「反ユダヤ主義について」昭和六二年『中央大学 人権シリーズ』

中央大出版部

「『最後の誘惑』とは何だろうか——天使と悪魔の同一性をめぐつ

て——」平成元年『ライフ・サイエンス』五号、生命科学振興

会

「人間科学とは何だろうか」平成元年『阪大人間科学部紀要』第一  
五卷、阪大人間科学部

「フランクフルト学派における存在と時間」平成元年『科研費総合  
研究報告書』

「思想史の深層——フロイトとユング——」平成元年『週刊読書人』  
一〇月九日号、読書人

「科学史・思想史・学説史」平成元年『科学史講座』培風館

「ドイツにおける斎藤茂吉——茂吉とユダヤ人問題——（一）」平

成元年『ライフ・サイエンス』一一号、生命科学振興会

「ドイツにおける斎藤茂吉——茂吉とユダヤ人問題——（II）」平

成二年『ライフ・サイエンス』一号、生命科学振興会

「ドイツにおける斎藤茂吉——茂吉とユダヤ人問題——（III）」平

成二年『ライフ・サイエンス』二号、生命科学振興会

「ドイツにおける斎藤茂吉——茂吉とユダヤ人問題——（IV）」平

成二年『ライフ・サイエンス』三号、生命科学振興会

「医者と患者のコマニケーション」平成二年『臨牀看護』一六卷

三号、ぐるす出版

「医者と患者のコマニケーション」平成二年『臨牀看護』一六卷

四号、ぐるす出版

「ユダヤ人迫害、異端審問（I）」平成三年『中央公論』四月号、

中央公論社

「ユダヤ人迫害、異端審問（II）」平成三年『中央公論』六月号、

中央公論社

'Beyond Disillusionment—Reflections on Freud's View of War—', 平成11年, *Ecole of Peace*, 遊説平和財团

「小人と天使（1）」平成3年『東北哲学会年報』第七号、東北哲学会

学

「小人と天使（11）」平成11年『哲學』第四1号、日本哲学会

◇著書

『社会哲学の復権』昭和四31年、せりか書房

『ユートピアの論理——フランクフルト学派研究序説——』昭和四

九年、河出書房新社

『現代批判の哲学』昭和五四年、東大出版会

『結晶と破片——現代思想断章——』昭和五九年、国文社

◇編著

『社会の哲学』昭和五〇年、学文社

『知識社会学』昭和五一、東大出版会

『社会思想史（1）近代』（平井俊彦と共編）昭和五四年、有斐閣

『社会思想史（11）現代』（平井俊彦と共編）昭和五四年、有斐閣

『マックス・ウェーバー』昭和五四年、有斐閣

『歴史の哲学』（高橋昭一と共編）昭和五五年、学文社

『社会思想史』昭和五五年、弘文堂

『フランクフルト学派再考』平成元年、弘文堂

『現代社会学群像』（鈴木広と共編）平成1年、恒星社厚生閣

◇訳書

ケットラー『文化と革命』昭和四四年、白水社

マンハイム『歴史主義』昭和四五五年、未来社

マンハイム『イデオロギーとユートピア』昭和四六年、中央公論社

ウヨーバー『社会学論集』（浜島朗と共訳）昭和四六年、青木書店

バロオン『イデオロギーは何か』昭和四九年、講談社

ショトラッサー『人間科学の理念』（加藤精司と共訳）昭和五三年、

新曜社

ハーマス『ローマン・カーンの行為の理論（中）』第四章、（平野嘉彦と共訳）昭和六一年、未来社

ホルクハイマー＆アドルノ『啓蒙の弁証法』平成1年、岩波書店

他に書評、エッセイ、小品等、約百編